

銷夏の詩（袁枚）

衣冠を 著けざること 半年に 近く

水雲 深き 処 花を 抱いて 眠る

平生 自ら 想う 無官の 楽しみ

第一 人に 驕る 六月の 天

不著衣冠近半年 水雲深處抱花眠
平生自想無官樂 第一驕人六月天

解説 銷夏というのは、夏の暑さをしのぐという意味であるが、この詩は官を去った後の自適の境地を楽しげに詠ったもの。

語釈 ※不著衣冠Ⅱ役人生活から身を引くこと。※水雲Ⅱ水と雲。
※抱花眠Ⅱ花に囲まれて眠ること。※驕Ⅱ威張ること。

通釈 役人生活から身を引いてから、半年近く経つ。水が清く雲の深いところで、花に取り囲まれて眠る自適の生活。平生無官の楽しみを心にかけてきたが、その楽しみが実現した今日、ことにこの炎天下の六月は人に威張ってやりたいものだ。